

排水設備適正管理の重要性

理事長 亀田泰武

現在 400 戸の集合住宅団地の役員をさせられている。入居後 30 年経ち建物や道路の補修、高木管理など手がかかるようになってきて、仕事も多い。昨年我が家のある 80 戸の建物の火災感知器の交換を行うこととなった。おもとの火災警報盤と住戸各室の感知器の



交換を行うもので、各家に入り込んで 10 個近くある感知器の交換をするので何事も対応しない住戸対策が大変であったがとにかく全戸交換ができた。この際、消防署への手続きがけっこう大変であった。

機器の交換にあたっては所轄の消防署に事前に届け出て、工事後完了検査を受けなければならない。検査では所員が 2 人来て、施工会社、管理組合役員が立ち会い、けっこう厳しく検査し、指摘事項もあった。また集合住宅では年 2 回、住戸各部屋の火災感知器検査が義務づけられている。

火災防止のために、消防自動車などの消火体制整備の他、民に属する建物に対する規制もしっかり行われている。

下水道を考えてみるとアセットマネジメントが大きな課題となっていて各機関の取り組みが進んでいる。

管きよ管理では不明水と管きよの腐食が大きな問題である。これについてよく考えると排水設備の不適切な管理がけっこう原因となっていることが多い。

排水設備の方が公共下水道より排水管の延長は長いだろうしマスなど開口部や会合点は多い。

設計水量で比較すると雨水量は汚水量より 2 桁多いので、排水設備内の汚水管へのちょっとした雨水流入が大きな影響をもたらす。ビルピット管理の良くない箇所も多く、コンクリー

ト施設の腐食損壊を引き起こす。管きよのアセット管理をしっかりやっても排水設備の管理がいかげんであると良好な施設管理から縁遠いことになってしまう。

消防法までのレベルと言わないまでも排水設備に関する規制の適正化が最も改善すべきことであると考えます。

2016 年度活動報告

管路部会グループセミナー

「下水道管路、管理運営に求められるもの」

理事 阿部恭二

1 月 27 日（金）13：30 から、JR 池袋駅西口近くの測量地質健康保険組合健保会館において標記の管路部会グループセミナーが開催されました。このグループセミナーは、会員限定の勉強会として企画しましたが、正会員・賛助会員合わせて 45 名の参加者があり、関心の高さがうかがえました。

セミナーは講演と全体討議の 2 部構成で行われ、第 1 部の講演では最初に、国土交通省下水道部流域管理官付課長補佐の斎野秀幸氏が「内水浸水対策に関するガイドライン類『七つ星』



について」を説明しました。次に、新たな雨水管理計画策定手法に関する調査検討会事務局の服部貴彦氏が「水位主義雨水事業のこれから」と題して、水位主義による浸水対策マネジメントの考え方を紹介しました。三番目の講演は、新技術を活用した調査のあり方等を研究し、効率的な不明水対策に資する目的で活動している不明水研究会会員の永田壽也氏の「不明水問題

資源活用型下水道システム部会 28年度研修会報告

副理事長 清水 治

について—コンサルタントの立場から—」。永田氏は同研究会の取り組みなどを発表しました。続いて同じく不明水研究会会員の後藤清氏が「不明水問題—調査会社の立場から—」を講演しました。後藤氏はこれまでの水位スクリーニングの問題を解決する「圧力チップを使った水位スクリーニング」の詳細情報も開示しました。最後の講演は、管路情報活用有限責任事業組合の有田良一氏による「管路施設調査最新技術—3D化画像によるデータベースの構築と活用—」でした。講演では、人孔内固定TVカメラ調査システム等の技術が解説されるとともに、「自治体のデータベース構築と管理負担を軽減できるシステム」が提案されました。

第2部の全体討議では、当倶楽部理事の押領司重昭氏がコーディネーター、そして講師5名がパネラーとなり、聴講者も交えて活発な意見交換が行われました。特に不明水対策に関わる議論が多かったですが、地方自治体の状況の一部が報告されたほか、不明水対策については、住民からの情報や地域の水利用

2月10日に文京区本郷の全水道会館で85名の聴衆を集めて開催した。ディスポーザ部会ではディスポーザ普及活動から活動範囲を広げて、バイオエネルギーの活用や下水の持つエネルギー利用等のテーマで3年間、研究集会を進めてきたが、今回、久しぶりに「その後の直投型ディスポーザの普及と新たな動き」をテーマで開催することとなった。

当倶楽部の毘理事の司会で、亀田理事長の挨拶から始まり、まずは日本大学生産工学部土木工学科森田弘昭教授から「ディスポーザを取り巻く最近の話題」をテーマに、平成12～15年度まで土木研究所で実施した、北海道歌登町におけるディスポーザ導入社会実験の苦労話から始まり、先生が現在大学で取り組んでおられているバイオマス活用でのディスポーザの役割と、急増する高齢者向けの住宅の整備(下水に流せるオムツ用ディスポーザ)などの話題提供があった。

次いで北海道沼田町建設課中野栄治課長から「公共下水道へのディスポーザ導入の経緯について」をテーマに毎年2%の人口が減少する雪国の沼田町で、雪エネルギーを活用した穀物や花の低温貯蔵の話から始まり、ごみ処理コストの低減と、利便性、衛生面の改善で導入したディスポーザの設置状況や(設置に対して25,000円/基の助成金)や、導入による処理場への影響がほとんどなかったこと、平成25年に実施したディスポーザ使用者アンケートの話等があった。



の歴史を知る必要があるとの意見や、現状では地方自治体が困っている具体的なことを解決するのがよいとの意見などが出されました。



休憩後、秦野市伊勢原市環境衛生組合施設課栗原一彰参事(兼)課長から「秦野市における公共下水道へのディスポーザ

ゴミの収集作業の実態を見た

望月倫也

導入について」をテーマに、導入に対して保守的な先輩や組合からの反対等の苦勞話から始まり、ディスプレイ導入による下水道施設への影響判定を日本下水道新技術機構に委託し、積極的に導入を進めたこと、また現在、排水処理装置併設のディスプレイ導入は全処理地区で、直投型ディスプレイは秦野市公共下水道中央地区に限定しているが、引き続き他地区での導入を依頼し、普及を図るとの力強いお話があった。

最後に明治大学工学部建築学科園田眞理子専任教授と、日本下水道事業団総括部計画課阿部千雅課長から「おむつ×ディスプレイ×下水道」をテーマに下水道、都市、建築、住居、設備分野の女性エンジニアが結集して立ち上げた「下水道・LIFE・エンジプロジェクト」の紹介があり、引き続き、高齢者社会になると女性の役割が大変なことから、下水道に流すことができる老人用のオムツ、オムツ・ディスプレイの開発、新トイレ空間の開発、さらに環境合理性と経済合理性のお話があった。

最後に当NPOの栗原理事をコーディネータとしての全体討論を行い、講師を交え活発な意見交換を行った。



週末居住している村のゴミ集積場での話だ。

そこにゴミ収集車が作業中だったので、自宅の資源ゴミを



分別カゴに仕分けして置くまえに、見物することにした。機械的に回転板で詰め込むパッカー車は可燃ゴミを圧縮する機能がある。その日は

資源ゴミの収集日だが、同じ車両を使い、運転手は分別各カゴの中身をいっしょくたに放り投入した。各色別のビンが音を立て割れごちゃ混ぜになる。無色、茶色、緑色に折角分けた住民の努力が無駄になった。ほかのスティール缶とか不燃物も混ぜてしまう。袋に入れて各々収集するのはアルミ缶とペットボトル、電池のみ（有価物と法律規制）。



分別されたものを収集車の中で再び混ぜてしまうのを不審に思い、おずおずと理由を聞いてみた。回答は、そのまま埋め立て処分するから、そもそも分別不要だと言う。すべて分けて運ぶのではパッカー車は使えない。

その答えに加えて、可燃ゴミに紙おむつが処理されないで出されるのが困る、と私も犯人のような目で吐き捨てるように言った。「処理されないで」とは内容物をトイレに捨てないでそのままくるんで、の意味だ。（都会からの住人は困ったものだ）と目で言っていた。

筆者は門前の小僧であるが、廃棄物行政では、中間処理場（焼却）の広域化とか最終処分場の延命化とかの処理処分に注力されてきたが、収集・運搬も重要だ。東京都の清掃局には約一万人の職員（委託含み）がいるが、そのほとんどは収

集・運搬関係だ。人件費も巨費にのぼり、合理化と、作業環境改善も必要だ。下水道で言うと、管渠整備費は全体の8割を占めるには処理場などに注力されてきたのと同じだ。これら静脈事業を協働するように考えれば、下水道管渠に下水に加えて廃棄物（生ゴミ）を粉碎してから流す「ディスポーザ」が合理的となる。ディスポーザはその導入の問題点が技術的にほぼ解決されているが、紙おむつもトイレ内設備で粉碎して下水管で流せる素材技術開発をすれば、前記収集人の苦労もなくなる。家庭内での生ゴミ、使用済み紙おむつの環境問題が解決できる。

最近の水倶楽部シンポ二つ（管渠雨水、ディスポーザ）に参加したのちの本稿では廃棄物は運搬が肝要であると説明した。前者管渠テーマでの雨水（不明水の原因でもある）も速やかな排除の対象となるので、一種の廃棄物と考えれば、すべてを合流（させる）管の積極的意義となるだろう。

お知らせ

会費改定について（事務局からのお知らせ）

今年度の定時総会でご案内いたしましたが、来年度から会費が改定されます、値上げではありません、値下げです。当倶楽部設立以来 13 年を経過しましたが、会員各位のご協力により財政的にある程度の安定性が確保されるとの見通しが出来たことによる値下げです。

しかしながら、28 年度分と 29 年度分の会費を一括納入されている会員の中に、29 年度の会費値下げを考慮せず 29 年度分 6,000 円を納入された会員が数名おられます。

通常、会費納入のお願いは 6 月の定時総会后メール発送していますが、4～5 月中にルーチンとして 10 数名の会員が会費納入頂いておりますので、お間違えの無いようお願いいたします。

以下に、新会費をお知らせいたします。

平成 28 年度まで 平成 29 年度以降

正会員	6,000 円	5,000 円
賛助会員	50,000 円	40,000 円

理事・事務局長 田野嘉男

編集幹事のあと整理

- 巻頭文は亀田理事長の住宅設備管理規制適正化論。ご自宅マンションの消防設備受検から発展し、下水道の排水設備まで言及しています。
- 今号では一月、二月と相次いで開催された計二回の活動についてそれぞれ阿部理事、清水副理事長より報告文が寄せられました。編集幹事子も両方に参加しました。それぞれ盛会でした。
- 会員だよりは編集幹事子（望月）の廃棄物論です。下水管は廃棄物を運搬する都市の静脈であると発展定義すると、下水以外に生ゴミと紙おむつと都市から速やかに排除すべき雨水を含められないか？と両活動に参加・影響されて考えました。
- 一月の管路部会セミナーでは不明水対策とくに雨水起源のものを遮断する手法が熱心に議論されました。その迷惑な雨水を廃棄物として扱ってむしろ受け入れたらよい、と発想を変えれば、「合流式下水道」（になってしまった）積極論になります。
- 会員だよりコーナーへの投稿を募集しています。投稿はいつでも受け付けます。直近の号に掲載します。投稿要領などは望月から毎回お出ししている原稿依頼メールをご覧ください。

編集幹事・望月



モンゴルの大草原と湖